

高津おはなしアーカイブ

杉山澄子（すぎやま すみこ）さん
昭和14年生まれ 77歳
川崎市高津区蟹ヶ谷在住



◆蟹ヶ谷に吹く涼しい風

高津区蟹ヶ谷に7人兄弟の三女に生まれました。姉が2人、私、弟が3人、妹が1人です。実家は今住んでいる家の隣にあって、農家でした。母は末っ子で農家を継ぎ、父は小田中の農家からの養子でした。

このあたりは、戦前は12軒しかなかったんです。我が家の周りを見渡す限り田んぼが広がり、山の方に上がると一面畑でした。サツマイモ、ジャガイモ、ムギ、アワ、それからゴマも。食べるものは全部作っていましたね。

田んぼにはカエル、タニシがいて田ん

ぼからくる風が涼しかったこと。

蟹ヶ谷には今、マンションが18棟建ち並び、田んぼもなくなりました。昔は橘橋を渡って蟹ヶ谷に入ってくると吹く風が涼しかったのですが、今はその感覚はなくなってしまいました。

◆午前中は子守り。午後から学校へ

小学校は、橘小学校に1時間かけて歩いて通いました。当時は学校が2部制で、午後からの日は、両親は朝から畑に行くので11時頃まで弟をおぶって子守りしてから学校に行く、そんな生活でした。

道路は牛や馬が行き交い、リヤカーや自転車などで溝ができていて、雨の日は大変でした。洋服に下駄、下駄は父と母が桐の木を植えて、その木を使って父が作ってくれました。学校の帰りに鼻緒が切れると大変だったけどね。

3年生の時から粉ミルクとコッペパンの給食が始まりました。大きな釜で粉ミルクを沸かして、杓子で器に注いでもらう。毎日毎日、同じコッペパン。おいしくなかったわ。

休み時間は男女一緒に馬跳びや、女の子はお手玉をやりました。私、5個くらいできましたよ。家でアズキやジュズダマを入れてお手玉を作って持っていきましたものね。

中学校は西中（西中原中学校）に通いました。3年生の時に橘中学校ができ、家が近い人は転校した人もいたけれど、私はそのまま西中に通い卒業しました。

◆かまど3つで煮炊き

家にはかまどが3つあって、ご飯は1

回に一升五合くらいは炊いていましたね。

最初は藁や紙で焚きつけて、それから父が割って作った薪をくべていく。かまど炊きごはんは、その場についていないといけないから大変でした。

白いごはんはお正月くらいで大抵は麦やサツマイモが入ったごはんでした。

麦が多いと消化がよくて、お腹がすくんですね。男達は何杯食べても年中お腹をすかしていました。

夕食のおかずで覚えているのはサンマ。元住吉の魚屋さんに交代で買いに行き、七輪で焼いて食べました。お肉なんて滅多に食べられなかったです。

鶏を20羽くらい飼っていて、1つの卵を2人で食べました。お客さんが来ると父が鶏をしめてもてなしていました。メスは卵がお腹にあって、煮て食べたりして、それがおいしかった。今では食べられないものですね。

◆力をあわせて家の手伝い

田んぼや畑など家の手伝いはよくやりました。十五夜の頃、月が出ると明るいから稲刈りが昼間だけでは間に合わないと言夜にも刈りました。

採れた野菜は、新丸子に市場があって、そこにリヤカーで持っていきます。姉たちとよくリヤカーの後押しをしました。野菜に撒く肥やしは丸子橋を渡って田園調布までくみ取りに行っていました。リヤカーに蓋つきの樽を6つくらいのせて、行きは軽くていいけど、帰りは重くて大変でした。女の子なんて関係なく、1週間に2回くらい姉と力をわけてリヤカーの後押しをしました。家につくと、すぐ

に畑にまく…これが臭くてねえ。ホント、昔の人は大変でした。

お風呂の水も交代で井戸から汲んで、父が作ってくれた薪で焚きました。今思うと本当に自給自足の生活でしたね。

◆おやつ、お小遣いも自分たちで

子どもの頃は石けり、お手玉、ゴム飛び、フラフープも流行りました。竹馬も自分たちで作って、乗ったのよね。

小学校の頃のおやつは、学校から帰ると姉たちと山に行つて黄色い花が咲く山いちご、桑の実や栗を採るんです。栗はすぐに竹でイガをとって、皮をむいて生のまま食べるの。それがおいしいのよ。だって家におやつなんか無いんだもの。春は矢上川の桜が見事に咲いて、サクランボもなつて、これもとるのが楽しみでした。

うさぎを飼っていて、エサは山にオオバコなどの草をとりにいきました。うさぎが子どもを産むと育てて、最初買ったお店に持っていくと買ってもらえたんです。それを姉たちと分けてお小遣いにしていましたね。



◆戦争のこと

小学校入学前に専念寺というお寺が爆撃を受けて焼けました。蟹ヶ谷には無線通信用の電波塔があって、そこが度々狙われ、専念寺は弾がそれて焼けたと聞いてます。その後は蟹ヶ谷では空襲で焼けたところはなかったです。でも爆弾は山のあちこちに落ちていて、それを拾って叩いたら爆発して手を失ってしまった男の子がいました。家の裏には防空壕があって、空襲警報のサイレンを聞くと、そこを出たり入ったり、B29が飛んでくると空を見あげたり…。大きな空襲を受けなかったせいか戦争中の記憶はあまりないんですよ。

戦後、1年生の秋ごろ学校に行く道にアメリカのジープが来ると「連れて行かれる」って大騒ぎして、みんなで隠れた思い出があります。戦後間もない頃は車といえば、アメリカのジープくらいでしたから。

◆あちこちの盆踊りに

蟹ヶ谷は小さな地域なので祭りは、元住吉から神主さんがきて八太（やふと）神社でお祓いしてもらって酒盛りするような小さなものでした。祭りのときには、いつも母がお赤飯を炊いてくれ、母の兄弟をよんでごちそうを作ってくれました。

私は盆踊りが大好きで、姉と一緒に小田中、井田、子母口など盆踊りの日に踊りにいきました。中学生になると母が浴衣を縫ってくれましたが、それまでは洋服で踊りました。井田などは所帯数が多いので、祭りには芝居が来てそれもあちこちに見にいきましたね。ちょんまげに

刀で…そんな旅芝居でした。

◆子どもたちの衣服は母の手作り

子どもの頃は、近くにはお店は1軒もなかったです。蟹ヶ谷で言えば山の上に1軒だけ「中島屋」というお菓子やチリ紙など雑貨をなんでも売っているお店がありました。

千年に「森田屋」さんという大きなお店があってここは着るものなどもあって、母は「森田屋さんに行けば何でも揃う」って言ってました。大きな農家はお米を持って行って、物々交換もしてくれていたようです。

うちは母が着るものは何でも作ってくれ、3年生の遠足の時にメリンスの着物からワンピースを手で縫ってくれ着ていたこと、よく覚えています。ブルマーも足袋も7人分すべて縫ってくれていました。

母は丈夫な人で、末の弟が産まれた時は直前まで田んぼで草取りをしていて、お腹が痛くなって慌てて家に戻って、父が自転車で井田のお産婆さんと呼ばれて行って産まれたことをよく覚えています。

◆高校進学をあきらめ紡績工場へ

小学4年生の時から元住吉の駅の向こうにあるそろばん教室に通い、2級をとりました。私は高校に進学して事務員になりたかったんですね。でも下にまだ弟や妹がいる、家の事情を考えて高校進学はあきらめて、中学を卒業して、刈宿にある紡績工場に勤めました。私たちの時代、半分は高校に進学したので、高校には行きたかった

わ。

西中原中学校から女子4人が紡績工場に就職しました。当時紡績工場は成長期で機械は止めず24時間フル回転の2部制でした。当時、川崎行きのバスが通っていてバスで刈宿まで通いました。

ここで主人と知りあって20歳で結婚しました。主人は埼玉出身で、寮にいて自炊しながらの仕事は大変で、早く結婚したかったんでしょうね（笑）。

結婚後は、私は仕事はやめ渡田の2階建てで6軒ある、トイレ、流しが共同のアパートで暮らし始めました。2階は配管が細くて下で使っていると水が出ない、洗濯など本当に大変でしたね。

子どもが生まれる時に、実家の隣家に移り、実家の家事や弟たちの面倒をみながら2人の子どもを育てました。主人は荏原製作所に移り、元住吉まで自転車で行き、そこから電車に乗り蒲田で乗り換えその先まで通勤していました。

◆新しい文化にふれる街、元住吉

元住吉に映画館が駅を挟んで2館あって、姉たちとお正月によく自転車で行きました。青春時代は映画が楽しみでしたものね。印象に残っているのは、やっぱり美空ひばりなど3人娘が出た「ジャンケン娘」よね。高峰三重子の「二十四の瞳」も良かったです。吉永小百合も好きでした。

テレビは元住吉に「やぶそば」という大きなお蕎麦屋さんがあって、そこ

でお蕎麦一杯食べながら、見せてもらいました。力道山のプロレスは人がすごかったです。

溝の口へ行くようになったのはバスが通るようになってからですね。母はスーパーの十字屋が好きでよく行っていました。

◆激変した蟹ヶ谷

昔、蟹ヶ谷は平屋だけ、田んぼが一面に広がり緑がきれいでした。

多摩川の花火は丸子橋であがり、近所で集まり縁台を置いてうちわであおぎながら「きれいねえ」と言いながら花火を見ていましたから。

今は、田んぼはなくなり、高い建物が建ち並び、花火も二子橋に変わり何も見えなくなりました。

今、主人と集会所で市政だよりなど広報紙の仕分けを毎月しています。町会に入っているだけで1,600世帯、マンションは18棟あります。

帰ってくると涼しい風がふいていた蟹ヶ谷は、農家は農地を手放し、山はすべて宅地に開発され、大きく変わりました。これほど変わったところはないのでは？と住み続けながら思っています。

（平成28年9月13日取材）